

第14章 都留市の小学校における「総合的な学習の時間」について

社会調査・地域調査 A 教育・福祉班 教育グループ

メンバー：内 理江子 今福健太 岩倉さとみ 岡田沙季

14.1 はじめに

問題関心

近年、全国の小中学校において教育内容の見直しが行われ、ゆとりある教育が進められるようになった。その一環として、「総合的な学習の時間」が導入されている。そこで、私たち「教育・福祉班 教育グループ」は都留市の小学校における「総合的な学習の時間」の活動に興味をもち、調査することにした。「総合的な学習の時間」を運営するうえで重要な課題として、学校と地域が協力して子どもたちを支えていくことが挙げられるが、都留市では「総合的な学習の時間」の活動を通して地域と学校がどのように協力しているのか、明らかにしようと思う。

調査活動

「教育・福祉班 教育グループ」は、文献調査によって「総合的な学習の時間」に関する基礎的な情報を収集した後、4つの調査活動を展開した。まず、市内の小学校の現場を訪ねて、「総合的な学習の時間」の具体的な活動とその企画・運営の実態について理解しようと試み、2つの小学校（谷村第二小学校と東桂小学校）から調査の協力を得た。谷村第二小学校では、その活動が日曜参観での体験学習においても実施されており、私たちは当日のもようを参与観察の手法によって見学し、同時に、それに参加している児童や父母・家族、先生、講師の方々にインタビューを行った。これが第1の調査である。第2に、東桂小学校の教頭先生および教務主任の先生から、同校での実施状況などについてお話を伺った（聞き取り調査）。また、東桂小学校では、アンケート調査「都留市の小学校における『総合的な学習の時間』に関する調査」（自由回答形式）を実施し、先生方4名、児童6名から回答を得た。さらに、都留市教育委員会の学校教育課を訪ねてインタビュー調査を行った。

14.2 「総合的な学習の時間」の導入と課題

高度経済成長期以降の日本の教育は、詰め込み教育が中心であった。学力といえば、読み書きや計算、知識の量を指し、それらはすべて受験対策としてみなされるむきもあった。また、学卒後の職業社会でも学歴によって収入や待遇に格差が生じていると考えられることが多く、そのため、ますます知識偏重の教育が進んだ。その過程で、教育現場では、いわゆる「できない子」が淘汰される傾向が現れ、いじめ、不登校、学級崩壊といった問題が発生するようになった。また一方で、画一的な教育を行ってきたために、子どもたちの学ぶことの喜びの喪失や、主要国に比べた場合の日本の学力の低下などの問題も近年注目されている。OECD（経済協力開発機構）などの調査によると、文章を読み解き、問題を解決し、新しい発想を生んでいく能力が、先進国のなかでも日本は極めて低いという（「神戸新聞 WEB NEWS」2002年3月24日）。そういった体質を改善するべく、2002年4月から、「総合的

な学習の時間」が新しく設けられるようになった。

「総合的な学習の時間」とは、① 地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校が創意工夫をして特色のある教育活動が行える時間 ② 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの従来の教科にまたがるような課題に関する学習を行える時間のことをいう（「文部科学省ホームページ」）。「総合的な学習の時間」では自ら課題を設定し、自ら学び、自ら問題を解決するため、日本の子どもたちに欠けている問題解決能力を高めるきっかけとなる。また、近年、人間関係が希薄になってきているといわれているが、「総合的な学習の時間」を通して、地域の人びと、異年齢の人びとと交流することにより、他の人びとと協調すること、また他の人を思いやる心などの人間性を育むことを可能にするのではないかとと思われる。

「総合的な学習の時間」では、国が一律にカリキュラム内容を示していないため、各学校が独自に創意工夫を発揮することができる。そのため、教師や学校による裁量の自由度が増し、学びの質が向上することが期待できる。しかし、一方で、内容が示されないからこそ、学校によって格差が生じたり、手引き本を真似た授業が広がったりすることも懸念される。

さらに、先に述べたように、日本の学力低下が進行しているなか、「総合的な学習の時間」の導入に加え、授業時間の1割縮減、学習内容の3割削減などの方針により、学力低下に拍車がかかるのではないかと、ということも懸念される。また、当初、文部科学省は「学力低下はない」との立場から、新指導要領について「学ぶべき最低基準だ」という解釈を示していたが、さらに軌道修正し、理解度の低い児童・生徒には放課後に補習をし、理解の進んでいる児童・生徒には内容を深めた発展的な授業をするよう、各教育委員会に求める方針を打ち出すなどし、さらなる混乱を招いている。「理解度によって子どもたちをグループ分けして授業を行う、いわゆる『習熟別授業』によって、学力低下へ対応できる」と小野元之文部科学省事務次官は述べている（「朝日新聞」2002年7月23日）。たしかに、「理解が遅れている子が減る」「できる子の力を伸ばせる」という利点もある。しかし一方で、「子どもの間に優越感や劣等感がうまれる恐れがあるのではないかと」という意見も聞かれる。

一連の教育改革は、まだ始まったばかりで問題が山積している。教師の力量が今後問われていくことには違いないが、しかし、子どもの教育を学校や行政に任せきりにするのではなく、父母や地域、企業が教育に積極的に関わっていくことも求められている。

14.3 「谷村第二小学校 日曜参観」の参与観察・インタビュー調査

14.3.1 調査の概要

調査の目的

都留市内の小学校の「総合的な学習の時間」の実態はどのようなものか調べることで、実際の「総合的な学習の時間」とはどのようなものか学び、それをもとに、その意義について考えていく。

谷村第二小学校における「総合的な学習の時間」の活動について

谷村第二小学校では、「総合的な学習の時間」の活動が日曜参観での体験学習においても実施されている。これは、地域住民を講師として招いて「しめ縄作り」「竹とんぼ作り」「うどん作り」「ウッドクラフト」「絵手紙作り」「ミサンガ作り」などの特別授業を行い、これに児童たちが日曜参観に訪れた父母・家族とともに参加するという活動である。

調査の実施方法

- 調査対象者： 谷村第二小学校 1～6 年生の児童、先生方、児童のご家族、体験学習の講師の方々
調査日時： 2004 年 11 月 7 日（日曜日）日曜参観開催日 午前 10:00～12:30
場所： 谷村第二小学校の校内
調査者： 教育・福祉班 教育グループ・メンバー2 名（内・岡田）、教員（榎本）
調査方法： 調査員が体験学習の各作業の部屋を訪ね、作業をしている様子を観察した（非参与観察）。また同時並行して、作業をしている児童、保護者、講師の方、および先生方に作業や体験学習への感想、考えなどをインタビューによって尋ねた。

14.3.2 参与観察記録

日曜参観は 1 校時に道徳の授業を行い、2 校時から 3 校時にかけて体験学習の各作業に分かれて参加するという流れになっている。私たち調査班が実際に訪問させていただいたのは 2 校時からであった。1 校時の道徳の授業では、おもに「心の教育」を重視し、力を入れているようだ。

2 校時から各作業にうつる。「しめ縄作り」「竹とんぼ作り」「うどん作り」「ウッドクラフト」「絵手紙作り」「ミサンガ作り」の 6 種類の作業があり、体育館や、校舎内の一般教室、調理室、理科室な

どに分散して各教室が設けられる。児童は学年に関係なく、各自の興味のある作業の教室へ保護者とともに移動し、作業に参加する。各作業それぞれに、講師として地域の住民や実際に自分の教室などを持たれている方が招かれている。講師に作業を教えてもらいながら取り組むという形式でそれぞれの特別授業が進められていく。「親子でともに学び、地域の方の素晴らしいパワーを学ぼう」という考えのもと行われているようだ。学校は、参観時間中に保護者に対して道徳や体験学習の各作業についてのアンケートを実施し、また、3 年生の道徳の学習指導案（点字をまなぶなど）などもプリントにされ配布されていた。



【各作業の様子と参加している児童・保護者・講師の方へのインタビュー記録】

しめ縄作りの様子



講師の方から「わら」や作業についての説明を受けている様子。作業は保護者にとっても難しいようであった。児童は「わら」そのものにとても興味をもっているようであった。

保護者の方のお話

父親（男の子）

「やってみると難しい。自分の父の世代くらいまでしか、〔しめ縄作りは〕もうできないのではないだろうか。今の子どもたちは『わら』自体を見たことがないのではないか。子どもとのこのようなふれあいの機会は大切だと思う。」

母親（男の子3人兄弟）

「父がやっていたのを見たことはあるが、もっと簡単そうだった。難しい。子どもと普段ふれあう機会が少ないので、親子で共同作業は良いと思う。こういう体験は子どもたちには必要だと思う。」

竹とんぼ作りの様子



作り方の説明の最中はなかなか話を聞かない児童も、作業になると目を輝かせて真剣に取り組んでいた。

保護者の方のお話

父親（女の子）

「竹とんぼを選択したのは、今までやったことがないから。普段は仕事で疲れているため、共同で何か作業をするということはない。」

うどん作りの様子



講師の方が各テーブルを回って、作業の進み具合をチェックしたり、それぞれにアドバイスを行ったりしていた。



お父さんたちも奮闘中。



講師の方のお話

「普段、うどん作りなんてやらないだろうから難しいのではないかな。自分も教えるということは初めてだったので、学校から頼まれた時、はじめは迷った。」

保護者の方のお話

父親（女の子）

「普段、自分も料理をまったくしないため、おもしろい。こういう料理を通した交流というのも良いのではないかな。」

「楽しいけど、むずかしい。」

ウッドクラフトの様子



人気が高く教室に入りきれなかったの
であらうか、屋外でもおおぜい作業していた。



先生方も各教室の様子をみてまわっ
ておられる。

保護者の方のお話

父親（男の子）

「子どもといっしょにされていて、とても楽しい。親の方が夢中になってしまう。子どもも家で遊んでいる時より真剣に取り組んでいる。」

児童

「お父さんといっしょにできて嬉しい。こういうの良いと思う。」

絵手紙作りの様子



野菜などを題材に絵を書いていた。同じものを書いても個性があふれている。



画料がにじまないコツや、書き方の視点について保護者からの質問も。そのたびに、講師の方はいねいに指導なさっていた。

講師の O さんのお話

O さんは絵手紙の教室を開いておられる方で、普段、市内でボランティアとしても活動されているそう。

「今年で3回目になります。谷村第二以外の小学校では教えていませんが、他の学校でもこのような活動が取り入れられていって欲しいです。普段、道ばたなどで画材を探すのですが、きれいな葉っぱを見つけて、子どもたちに話しても、いまの時代はただの怖いおじさんになってしまう。もっと普段から地域での交流が活発であつたらよいと思う。親たちでも若い世代は、『絵の具は汚れるから』といってなかなか絵手紙なんてする機会はないと思う。子どもたちは学校で書道や絵も習うのだから、絵手紙など受け入れやすいものをもっと取り入れてもよいと思う。」

保護者の方のお話

母親（女の子）

「絵手紙は前からやりたと思っていたが、なかなか手が出せなかった。今回、いろいろ教えていただいたので、家で子どもとやってみたいと思う。」

「絵を書くのはきれいだし、楽しい。」

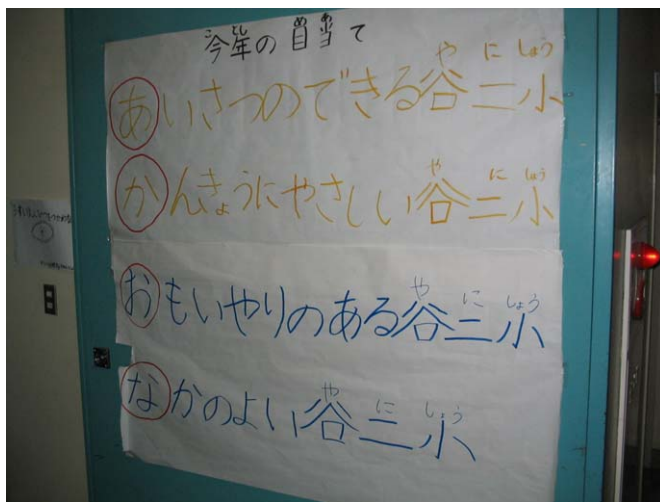
ミサンガ作り

作業そのものは観察する機会を失ったが、元気のいいサッカー少年2人に話を聞くことができた。「作るのは簡単だったし、おもしろかった」と言って、作ったミサンガを「かっこいいでしょ」と見せてくれた。

どの作業でも、普段やったことのないものであるからか、難しいという声があがっていたが、親子で楽しそうだった。児童からも保護者からも、「普段、いっしょに何かするという機会があまりとれないし、地域の方との交流もでき、良い機会だと思う」という感想が一樣に聞かれた。また、「子どもたちは、普段の授業とはまた違ったことがたくさん学べると思うので、良いのでは」という意見もあった。

14.3.3 谷村第二小学校の地域交流への取り組み

調査活動中に校長先生からお話を伺う機会があったが、谷村第二小学校では「総合的な学習の時間」を導入して以来、このような取り組み（日曜参観での体験学習）を毎年おこなっているという。同校としては、総合的な学習の時間に限らず、「地域との交流・連携」が大切であると考え、実際にその工夫もいくつか手がけられている。たとえば、日曜参観とは別に、「総合的な学習の時間」の一環として都留文科大学の留学生との交流を行っており、これは児童にとっても人気があるそうだ。また、毎年、運動会の案内状を、地域内の65歳以上のお年寄り全員に送るという。これによって、谷村第二小学校に通う孫や子どもがいるか否かを問わず、地域内の幅広い年齢層の住民が運動会に集うことになる。さらに、小学校の行事のお知らせを学校新聞の記事に取り上げて、それを地域の回覧板を通じて回覧してもらうそうだ。これにより、一般住民も学校行事についての情報を知ることができ、また、そこから話題がうまれて、学校としても地域との交流をはかっていくこともできるという。そのほか、あいさつ運動なども積極的に展開しているそうだ。



あいさつ運動の校内ポスター

14.3.4 感想と考察

「総合的な学習の時間」と一言でいっても、学校ごとにさまざまな取り組みが行われているようであるが、今回の谷村第二小学校への訪問で、実際の取り組みの一例に触れる機会が得られ、とても良い体験であったと思う。

保護者や講師の方々のお話のなかで共通していたのは「普段、子どもと何かいっしょにするということはある」「[そのための] 時間もとれない」「『総合的な学習の時間』の取り組みについて、良いと評価している」「子どもが普段より楽しそう、真剣であるように見える」などであった。「総合的な学習の時間」に対する谷村第二小学校のさまざまな取り組みのなかで、今回、見学させていただいたのは、親子で取り組むという形式による体験学習であるが、普段、子どもといっしょに何かするという時間がなかなかとれないという保護者の声を考えると、この試みはとても有益なものではないかと思った。そして、筆者自身が考えていた以上に、「総合的な学習の時間」の意義は深いと気付かされたように思う。たとえば、親子の協力の大切さや、他者とのつきあいで守らなければならないルールについて認識を促し、普段なかなか接する機会のない伝統文化について再発見する機会を提供し、また、それらの活動を通じて、普段はみられない、子どもたちの新たな個性の発見もできるかもしれない、など、「総合的な学習の時間」は多くの可能性を秘めているのではないかと思う。

「総合的な学習の時間」の運用は各学校に任されているために、全国の小学校のなかには、その時間を通常授業にあてるといったところもあるようだ。しかし、今回の調査で実際の取り組みの一例に触れてみて、そのような実施のかたちはとてももったいないと改めて感じた。「総合的な学習の時間」について、文部科学省が、その方針のみを打ち出して、具体的なカリキュラム内容を示していないと

いう事情による影響もあろうかと思われるが、各学校が、「総合的な学習の時間」の意義について建設的に考えていくことで、児童の成長や地域との交流についてさらにいろいろな可能性を見いだしていけるのではないかと思う。

(岡田 沙季)

14.4 東桂小学校を訪問して ―聞き取り調査

14.4.1 調査の経緯

私たち「教育・福祉班 教育グループ」は、都留市の小学校における「総合的な学習の時間」の実態を調査するため、調査候補先のひとつとして東桂小学校に協力を求めた。その結果、次節で取り上げるアンケート調査の形式により協力が得られることとなった。その実施の打合せのために東桂小学校を訪問する過程で、同校における「総合的な学習の時間」の実施状況や先生方のご意見を伺う機会が得られた。

14.4.2 実施概要

対象者： 東桂小学校 教頭先生および教務主任の先生
実施日時： 2004年10月26日（火曜日） 午前11:00～11:30
実施場所： 東桂小学校校長室
参加者： 教育・福祉班 教育グループ・メンバー3名（内・岩倉・岡田）

14.4.3 聞き取り記録

東桂小学校では、「総合的な学習の時間」は3年生から導入され、1,2年生では「生活科」という授業が行われているとのことであった。生活科の内容をどのようにして「総合的な学習の時間」につなげていくかということが課題であるようだ。

「総合的な学習の時間」のカリキュラム作成についてであるが、東桂小学校では現年度のカリキュラムを前年度のうちに組むということはないそうである。これは、担任の先生や児童たちの興味・関心などを優先させるためで、そもそも「総合的な学習の時間」において、児童がどのような問題関心を抱き、課題設定をどのように行っていくか、という点が一番重要なことであり、また時間のかかることであるという。しかし、課題設定の際、児童の興味・関心をすべて受け入れるとなると、やはり配当時間や担任の先生の指導の面で限界があるため、担任の先生がある程度の知識をもっていて、指導が可能な範囲での活動が主流になってしまうというのが実情であるようだ。その際、先生の専門の分野に児童をどのように引き付けるかということがとても難しいことであるようだ。また、教員自身が「総合的な学習の時間」を受けてこなかったため、運営には大変苦勞されるようだ。

次に、これまでの「総合的な学習の時間」の活動についてであるが、過去には、ヤマメの放流や、民話を紙芝居にして発表する活動、赤ちゃんをお風呂に入れる体験などを行ってきたようだ。ヤマメの放流の活動は県外の小学校とも協力して行われ、ヤマメの卵を孵化させることから始め、地元の養魚場の方の協力のもと、放流まで至ったという。この活動の目的はヤマメを育てるという理科の学習だけではなく、協力を依頼する際の人との接し方を学び、活動を通して人との交流を経験することにあったという。紙芝居の活動においても、たんに地域に伝わる昔話を知ることだけではなく、民話を

地元の方々に聞き、紙芝居にする過程で、地元の住民との交流を経験することが非常に大切な学習課題であるとのことであった。赤ちゃんをお風呂に入れる体験でも、その活動を通して命の尊さや母親の愛情を学ぶ取組が目的であったそうである。

しかし、このような活動の成果というものは、算数や国語といった普通科目に比べ、なかなか目に見えにくいものであるため、世間では、「総合的な学習の時間」の導入は学力低下を招くのではないかと危惧されたり、ただの遊びではないかと批判されたりすることもあるとのことだった。このような問題を解決するために、高校受験などで「総合的な学習の時間」を考慮するような対策を行うべきだという教頭先生のお言葉が印象的であった。

また、「総合的な学習の時間」が導入された当初に比べ、最近では、教員自身の「総合的な学習の時間」に対する意識が薄れつつあるということも指摘されていた。全国的にみると、修学旅行や遠足などの学校行事と「総合的な学習の時間」の活動を兼ねる学校もあり、「このような傾向は総合的な学習の時間の意義を無視したものである」と大変懸念しておられた。

14.4.4 感想と考察

今回、東桂小学校における「総合的な学習の時間」についてのお話を伺い、まず印象に残ったことは、「前年度のうちに教師サイドのカリキュラムは作成しておくが、当該年度を迎えてから、子どもたちと話し合い、興味関心をもとにテーマを決め細案を作り軌道修正を図っていく」という点であった。課題設定までのプロセスを大切にするという点は驚きでもあったが、また同時に、小学校の段階から、自分の興味・関心を活動の課題につなげていく能力を身につけることができる点は羨ましくもあった。なぜならば、私たち学生は受験のための詰め込み教育を受けてきたため、大学に入ってレポートを作成する際や、今回のような調査を行う際に、課題設定の段階で非常に苦労するからである。そういう点を考慮すると、やはり「総合的な学習の時間」は必要であると思う。たしかに、その活動による学習成果はわかりにくいものであるかもしれないが、長い目で見るとその後の人生において非常に有用なものになると思われる。世間一般の人びとが「総合的な学習の時間」の意義を理解するためには、学校が創意工夫をし、児童に有用な活動を展開していくことはもちろんであるが、教頭先生の指摘にもあったように、高校受験や大学受験のありかたも見直す必要があるだろう。

また、「総合的な学習の時間」に地域の住民が深く関与している点も印象的であった。教育現場だけではなく、地域も一緒になって子どもを育てていくことが重要であると改めて感じた。地域との関わりを密にもつことによって、次第に「総合的な学習の時間」への理解も深まっていくのではないかなと思う。

今回の調査を通じて、「総合的な学習の時間」の運営にまつわる先生方のご苦労などを伺えたことは、教員を目指している私たち調査メンバーにとって大変貴重な経験となった。この経験を、ぜひ、将来に活かしていきたいと思う。

(内 理江子)

14.5 東桂小学校アンケート調査

「都留市の小学校における『総合的な学習の時間』に関する調査」の分析結果

14.5.1 謝辞

今回私たちは、東桂小学校の先生方、児童のみなさんにアンケート調査（「都留市の小学校における『総合的な学習の時間』に関する調査」）へのご協力をいただき、「総合的な学習の時間」に関する貴重なデータを得ることができた。このデータをもとに、現在、東桂小学校で取り入れられている「総合的な学習の時間」に関する分析を行っていききたい。

14.5.2 問題関心

アンケートの調査項目を検討するにあたって私たちの念頭にあった問題関心は、次の9点である。

先生方へ

- ①「総合的な学習の時間」を通じて児童たちにどのようなことを学んでほしいと考えているか
- ②「総合的な学習の時間」として、具体的にどのような活動が行われているのか
- ③ その活動は、どのようなねらいで、また、どのような経緯で企画・決定されたのか
- ④ その活動を行ううえで工夫していることや気を付けていることは何か
- ⑤ その活動に対する児童たちの反応はどのようなものであるか
- ⑥ その活動に関わっている地域の住民や父母の反応はどのようなものであるか
- ⑦「総合的な学習の時間」を企画・実践するうえでどのような苦労があるのか

児童たちへ

- ⑧ 受講の感想と、その体験が自分にどのような影響を与えていると思うか
- ⑨「総合的な学習の時間」で学んでみたいことは何か

14.5.3 実施方法

- 調査対象： 都留市立東桂小学校3～6年生のクラス担任教員およびその児童
- 調査方法： 自由回答形式によるアンケート調査
- 調査主体： 都留文科大学社会学科「社会調査・地域調査A」教育・福祉班
- 調査項目： 東桂小学校における「総合的な学習の時間」の活動内容、企画・実施上の苦心点、児童の反応、「総合的な学習の時間」のカリキュラムに対する見解（調査票1）
同校同授業で参加した活動内容、受講を通じて楽しかったこと、学び取ったこと、努力したこと、苦労したこと、今後取り組んでみたいこと（調査票2）
- 対象者の選定方法： 教員代表者（教頭先生）に対象者と対象者数の選定を一任
- 実施方法： 自記式による留置配布回収法（教員代表者が校内で取りまとめ）
- 実施時期： 2004年12月14日～2005年1月14日
- 回収結果： 回収票10票（教員4票、児童6票）

14.5.4 調査結果

授業の実施内容

まず、先生方へのアンケートの問①『総合的な学習の時間』に関して、昨年度（平成15年度）、先生のクラスではどのような授業を企画・実施なさいましたか」という質問に対しては、クラスによってさまざまに異なる活動が回答として寄せられた。『歴史に学ぼう』という学級全体のテーマを持ち、修学旅行という大きな行事に絡めて、鎌倉時代について詳しく調べた」というクラスや、「お米とわたしたちのかかわり」をテーマに、バケツ稲作りを行うなどして、「一年間を通して、米を中心に、そこから広がる自分たちの暮らしにかかわって学習を展開してきた」というクラス、地域のお年寄りに話を聞いたりパソコンや図書館を利用したりして「昔の食べ物調べ」を行い、実際にその昔の食べ物を作って食べたというクラス、10歳になる年に「2分の1成人式」に取り組んだクラス、また、「おとなりの国『韓国』を知ろう」というテーマで、発表会や、韓国の方を招いての交流会、韓国料理作りなどに挑戦したクラスもあった。このように、「総合的な学習の時間」への取り組みは、学年やクラスによってさまざまであり、それぞれに多彩でユニークな活動が積極的に展開されてきたことがわかる。「総合的な学習の時間」の授業計画は、各学校やクラスに任されている面が多いため、このようなさまざまなテーマの活動を行うことができるのである。

運営上の課題

しかしその蔭で、先生方は、このような活動を実施するためにいろいろな苦勞をなさっているようだ。問②の『総合的な学習の時間』の企画・実施にあたられて、苦勞なされた点はどのようなことですか」という質問に対しては、何人かの先生に共通する2つの回答がみられた。一つは「児童一人ひとりに対する対応」であり、もうひとつは「作業時間の確保」である。第一の「児童一人ひとりに対する対応」について具体的に回答を追ってみると、ほとんどのクラスが、学級全体の大きなテーマをもとに、各児童が、個人またはグループで興味を持った課題について調べるという授業形態をとっているため、作業の進め方やペースも人それぞれで、指導が大変難しいという点である。児童一人ひとりに異なった指導をするには担任だけでは困難だという回答もあった。第二の「作業時間の確保」に関しては、第一の点でも挙げられたように、「担任だけで児童一人ひとりに対応するには、どうしても時間がかかってしまう」という意見や、「さまざまな課題に関する資料の収集などの事前の準備時間、また、発表会などを行う場合はその練習時間の確保に苦勞する」という意見がみられた。ほかにも、「児童にさまざまなテーマを提案するために、教師自身も常に『総合的な学習の時間』に使えるものはないかと、日常生活のなかで気を配っていかなければならない」という回答や、「気軽に学校に来ていただける講師の方が少ない」という回答もあった。

授業の成果

このような苦勞を抱えながらも、「授業内容に関して児童のみなさんの反応はいかがでしたか」という問いに対する回答には、「児童本人が興味・関心を持って取り組んだテーマだったので、意欲的に取り組んでいた」、「やり終えた充実感があったようだ」という回答が多くみられた。実際、児童たちへのアンケートにも、「総合的な学習の時間」を通じて、日本や外国の歴史・文化に触れ、新たな発見や驚きがあったこと、幼い頃の自分と今の自分を比べてその成長に触れたことなどが書かれており、児童たちがそれぞれに、この授業を通じて多くのことを感じ、学び取っていることがわかった。先生

方へのアンケートの、「総合的な学習の時間」のカリキュラムに対する教育効果を問う質問にも、多くの先生が、「児童らが自分で課題を設定し、その課題に対してどのように取り組むかを考えていく上で実践力を身に付け、さらに興味・関心を広げて、自分から学習する力をつける」というような回答をされており、このことは、「変化の激しい社会で自立的な社会生活を送っていくために必要な力を身に付けるという意味では、教育効果は高い」と考えられているようである。

分析と考察

上述のように、「教師の数の確保」や「時間の確保」、さらには、活動を行っていくうえでの地域との連携など、運営上の課題も数多く残されているが、この、都留市の小学校の「総合的な学習の時間」によって児童たちが学んだことは、かけがえのない財産になるものだと筆者は考える。児童へのアンケートでは、「今年（平成 16 年度）の『総合的な学習の時間』で、みんなで調べたいことや、とりくんでみたいと思うことはどのようなことですか」という質問に対し、「世界の歴史・出来事」「みんなで作物をいっぱい作り、そのたくさんの作物をみんなで持ち帰り、作物を集めて、料理をしたい」「他の国のいいところやすごいところをしらべて、すごいな、おもしろい、というところを見つけていきたい」「各都道府県の有名特産物に取り組みたい。または、世界の歴史を調べたい」「次はアメリカのことを調べたい」「都留市のことについて、くわしく調べてみたい（歴史など）」などのさまざまな回答が寄せられている。これらすべてを実現させるのはもちろん難しいが、児童たちが自ら興味・関心をもてることを見つけるという経験は、彼ら／彼女らのこれからの生活でも必ずや役に立つことだと思われる。

今回、私たちはこの調査によって、「総合的な学習の時間」の具体的な取り組みや運営上の課題、また、先生方が考える教育効果や児童たちの感想など、大変貴重な回答に接することができた。そして、それらを通じて、「総合的な学習の時間」の実態について、わずかなりともうかがい知ることができたように思う。この調査をきっかけに、私たち一人ひとりが、都留文科大学の学生として、「総合的な学習の時間」に対する理解を深めていけたらと思う。

（岩倉 さとみ）

14.5.5 調査票と単純集計結果

【調査票 1】（対象者：教員）

2004 年 12 月 13 日

東桂小学校の先生方へ

都留市の小学校における「総合的な学習の時間」に関する調査

都留文科大学社会学科

「社会調査・地域調査 A・B」教育班一同

【調査ご協力をお願い】

社会調査実習科目「社会調査・地域調査 A・B」では、「都留に暮らし、キャンパスライフを送ること」という調査テーマのもとに社会調査を実施しております。その一環として、私たち教育班は、都留市の小学校における「総合的な学習の時間」について基礎的な理解を深め、教育現場と地域社会とのつながりのあり方について考察したいと考えております。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、是非ともこのアンケート調査にご協力をいただきたく、お願い申し上げます。この調査は学術的な目的により行われるもので、データや分析結果を他の用途に濫用しないことを誓約いたします。この調査や記入要領についてのご質問などありましたら下記までご連絡ください。

* ご回答票のとりまとめに関しては、**教頭先生にご協力をお願い申し上げる予定でございます。ご多用中、誠に恐れ入りますが、2005 年 1 月 14 日（金） までに**先生にご提出下されば幸いに存じます。

教育班 学生代表 岩倉さとみ

Tel: ****-****-**** E-mail: *****@*****

授業担当者 社会学科非常勤講師 榎本 環

Tel: ****-****-**** E-mail: *****@*****

授業 HP URL:http://homepage3.nifty.com/t_enomoto/tsuru/

①「総合的な学習の時間」に関して、昨年度（平成 15 年度）、先生のクラスではどのような授業を企画・実施なさいましたか。

② ①の企画・実施にあたられて、苦勞なされた点はどのようなことですか。

③ 昨年度の「総合的な学習の時間」の授業内容に関して、児童の皆さんの反応（受講態度、関心度、感想など）はいかがでしたか。

④ 「総合的な学習の時間」のカリキュラムに対する先生ご自身のお考えをお聞かせください。

1) 教育効果

2) 運営上の課題点

3) 運営に関するご意見・ご提言

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答データ（教員4名）

A先生

①（授業の企画・実施内容）

「歴史に学ぼう」という学級全体のテーマを持ち、修学旅行という大きな行事にからめて鎌倉時代について詳しく調べたり、社会科の歴史学習が終わったところで、児童一人一人が興味を持ったことについて更に詳しく調べなおしたりした。

②（企画・実施にあたり苦労した点）

児童一人一人が取り上げたテーマに関する資料を集めること。個人研究であったので児童一人一人に対し、研究の進め方、まとめ方などの指導をしなければならなかったこと。総合の学習の経験が積まれてきて、自分なりの考えで学習を進められる児童もいるがまだまだ学習の進め方が分からず、その都度指導を必要としている児童も多かった。

③（児童たちの反応）

児童が日本の歴史について初めて学んだということもあり、多くの児童は興味、関心意欲を持って学習した。新しい知識を得ることが喜びとなって学習に取り組めた。

④（「総合的な学習の時間」のカリキュラムに対する意見）

1) 教育効果

自分の課題を設定し、その課題に対しどんな方法でアプローチし（それも1つの方法だけでなくいくつかの方法を考え）、どんなふうにまとめていくのかという一連の流れをつかめるようになると児童は自分の力で学習を進められるようになると思う。三年生の時から、ていねいな指導を重ねていくと学年が上がるにつれて力をつけていくと思われる。

2) 運営上の課題点

児童一人一人の学習の状況をつかみ、それぞれに必要な助言や指導を与えなくてはならなくてはならないが、教師一人ではなかなか大変であり、児童の要求に応じてあげられないことも多い。

3) 運営に関する意見・提言

2)に関わって、教師のみではなく地域の方や学生などを含めた学校ボランティアをつのり児童へ支援できる環境を作っていく必要がある。

B先生

①（授業の企画・実施内容）

テーマ「お米とわたしたちのかかわり」。一年を通してお米を中心に、そこから広がる自分たちの暮らしにかかわって学習を展開してきた。具体的に、バケツ稲作り、自分たちのくらしとのかかわり（歴史・生涯・地域の行事、祭りなど）、世界の米料理。

②（企画・実施にあたり苦労した点）

4月の時点で、今年度の柱になるテーマを決めるまでの方向性を導き出すところ。子ども達はどうしても、これまでの経験や昨年のものの発展応用に固執しがちなので、新しい部分に視点を広げていくことが必要である。そのためには教師としてもいくつかのテーマを持っていないと広がらないので、教師自身も常に総合として使えるものはないかと日常生活の中で気を配っていかなければアイデアがさみしくなってしまう。

③（児童たちの反応）

自分たちが興味関心をもって決めたテーマであったので、ここから先は自分たちで意欲的に発展させることができた。子ども達のアイデアは本当に豊かであり、教師の考えもしない方向に発展することもあり、軌道修正が難しく、時には必要である。

④（「総合的な学習の時間」のカリキュラムに対する意見）

1) 教育効果

中教審が示している「生きる力」これからの変化の激しい社会において、自立的に私生活を送っていくためには、

人間としての実践力が必要とされることは間違いないと思います。そういう意味では基本的には教育的な効果は高いと思います。それを指導する教師自身の資質や能力を向上させようとする意識が要求されます。

2) 運営上の課題点

子ども達が課題を見つけた時の解決の方策について。時間の確保、子ども達のニーズにあった教師の資質、技能・地域の施設、人材、素材の場所など細かい連携・ハード面での充実、予算。

3) 運営に関する意見・提言

総合的な学習は個に応じた課題や追求がペースになるので指導にあたる教師の数の確保も絶対的な条件であると思う。

C先生

①（授業の企画・実施内容）

「昔の食べ物調べ」。地域のお年寄りに聞いたり、自分でパソコンや図書館で調べたりして最後には実際に作って食べてみた。

2分の1成人式への取り組みとして父母にいろいろとインタビューしたり、将来の夢を考えたりした。それを父母の前で発表した。

②（企画・実施にあたり苦労した点）

食べ物の方では、いくつか出てきた食べ物の中からつくりたい物を選択する際、どのようにグループ化させるか、どう取材させるか（対象、方法、内容）。

成人式の方では、時間内で発表させるための工夫、練習時間の確保

③（児童たちの反応）

食に関することは意欲的に取り組む傾向にある。特に作って食べる時は生き生きとしていた。手伝いに来てくれたお年寄りとも楽しそうに会話していた。

成人式の方では、親の涙を見て児童達も感動していた。やり終えた充実感があったようだ。

④（「総合的な学習の時間」のカリキュラムに対する意見）

1) 教育効果

自分の欲求にあった課題を見つけられた児童は深く広く調べ学習を追求できる。

2) 運営上の課題点

大きなテーマの中で児童それぞれが課題設定をできるような手だて。児童の態度、社会の状況、要求にあった内容の選択。

3) 運営に関する意見・提言

他者との関わりという点でうまく関わりが持てるようにして、教師側で仕組む必要がある。他の教科では経験できない点を重視するのであれば、内容についてよく考える必要がある。

D先生

①（授業の企画・実施内容）

テーマ「おとなりの国韓国を知ろう」。課題別の調べ学習、それを発表。韓国の方を招いての交流会。韓国料理への挑戦。

②（企画・実施にあたり苦労した点）

近くに韓国人の方で学校に来て、子どもと関われる人がなかなかいなかったなので県の国際科にお願いをした。結局、一人の方が一回しか来なかった。韓国の事をよく知っている人が身近にいない。

③（児童たちの反応）

調べ学習、発表会、交流会、料理と興味をもって取り組んだ。関心は高く家庭でも話題として取り上げられたり、料理に取り組んだりしていた。

④（「総合的な学習の時間」のカリキュラムに対する意見）

1） 教育効果

課題別調べ学習については、自分たちで興味を持ったことを本やパソコンを利用し、調べる力が身に付いた（内容にあった本を探す。インターネットで検索するなどの力）。また分かったことを他の学習に生かすこともできるようになった。

2） 運営上の課題点

国際理解の分野の場合、子どもと関われる外国人の方がなかなかいない。調べ学習や交流会の準備にかかる時間が足りない。

3） 運営に関する意見・提言

特別な内容に取り組む場合の講師で気軽に学校に来ていただける方が少ない。事前準備や作業は担任だけでは難しい。

【調査票 2】（対象者：児童）

2004 年 12 月 13 日

東桂小学校の児童のみなさんへ

都留市の小学校における「総合的な学習の時間」に関する調査

都留文科大学社会学科

「社会調査・地域調査 A・B」教育班一同

【アンケートご協力のおねがい】

みなさん、こんにちは。私たちは都留文科大学の「社会調査・地域調査」という授業で、地域のこと社会のことを調査する勉強をしている大学生です。私たちのグループ「教育班」では、都留市内の小学校で「総合的な学習の時間」に、みなさんがどのようなことを勉強なさっているのかについて関心をもっています。「総合的な学習の時間」の授業を受けてみて、楽しかったことや勉強になったことなど、みなさんの考えたことを、ぜひ、おしえてください。この調査は大学での私たちの研究のためだけに行うものですから、このアンケートに答えてもらうことによって皆さんにごめいわくをおかけすることはありません。どうか、ご協力をおねがいします。

* 書き終わったら、2005 年 1 月 14 日（金） までに**教頭先生に提出してください。

教育班 学生代表 岩倉さとみ

Tel: ****_****_**** E-mail: *****@*****

授業担当者 社会学科非常勤講師 榎本 環

Tel: ****_****_**** E-mail: *****@*****

授業 HP URL:http://homepage3.nifty.com/t_enomoto/tsuru/

1. 去年（平成 15 年度）の「総合的な学習の時間」では、どのような活動にとりくみましたか。

--

2. その活動で、楽しかったこと、おもしろかったことは何ですか。

--

3. その活動で、勉強になったことや、新しく発見したことはどのようなことですか。

--

4. その活動で、とくに、いっしょうけんめいがんばったのは、どんなことですか。

5. その活動で、たいへんだったのは、たとえばどんなことですか。

6. 今年（平成 16 年度）の「総合的な学習の時間」で、みんなで調べたいことや、とりくんでみたいと思うことはどのようなことですか。

質問はこれで終わりです。ありがとうございました。

回答データ（児童 6 名） 表記は原文のまま採録した。

児童 A

①（受講した活動内容）

お米の作り方、実の取り方。

②（楽しかったこと、おもしろかったこと）

グループで協力してまとめ発表してクイズをだしたこと。

③（勉強になったこと、新しく発見したこと）

古代米でいろいろな色があったことやいねかりのしかた。

④（とくに、がんばったこと）

自分達のグループの米の水のちょうせつ。

⑤（たいへんだったこと）

夏休みの水のちょうせつ、こめのなえ作り。

⑥（次年度の活動でとりくんでみたいと思うこと）

せかいの歴史、出来事。

児童B

①（受講した活動内容）

総合的学習でかん国のことを調べた。

②（楽しかったこと、おもしろかったこと）

楽しかったことは、チヂミなどを作ったこと。おもしろかったことは、かん国の地りを調べて、地図を作ったこと。

③（勉強になったこと、新しく発見したこと）

かん国はからい物がさかんだということや、町の名前がいっぱいあったこと。

④（とくに、がんばったこと）

地理のことを調べ、地図を書いたこと。

⑤（たいへんだったこと）

本・資料などをたくさん読んだりして、たくさんのもをもぞう紙に書いた。

⑥（次年度の活動でとりくんでみたいと思うこと）

みんなで作物をいっぱい作り、そのたくさんの作物をみんなで持ち帰ったり、作物を集めて、料理をしたりしたい。

児童C

①（受講した活動内容）

図書館の本で調べたり、先生が図書館で本をかりてきてくれたのでそれを使ってプリントや、もぞうしにかいたりしました。

②（楽しかったこと、おもしろかったこと）

最後の時にチヂミを作りみんなで食べたり、かんこくの事を調べたのでかんこくの人がきていろんな事を教えてくれました。

③（勉強になったこと、新しく発見したこと）

日本にはないあそびがあったり、にたような物があり、ご飯を食べる時、食器を持つときょうぎがわるいということです。

④（とくに、がんばったこと）

見たい本をほかの人に取られた〔先に借りられてしまった〕時に、それとにている事ののった本をさがす時。

⑤（たいへんだったこと）

本で調べおくれていたら、しつ問などができないので休み時間をけずって調べた事です。

⑥（次年度の活動でとりくんでみたいと思うこと）

他の国のいいところやすごいところをしらべて、すごいなおもしろいところを見つけていきたいです。

児童D

①（受講した活動内容）

去年の総合的な学習では、かんこくの国を調べ、かんこくの食べ物やようふくを調べた。そしてそれを新聞にして発表した。チヂミを作った。

②（楽しかったこと、おもしろかったこと）

みんなが新聞にして発表したので、いろいろな事を知った。

③（勉強になったこと、新しく発見したこと）

今は、もう書けないけど、その時はかん国語が少しかけるようになった。

④（とくに、がんばったこと）

新聞を作るためには、しりょうが必ようで図書かんやパソコンでしらべるからいっしょうけんめいどりよくした。

⑤（たいへんだったこと）

チヂミ作りをする時、ざいりょうや、どうやって作るか、を調べるのが大へんだった。

⑥（次年度の活動でとりくんでみたいと思うこと）

次は、アメリカのことを調べたい。

児童E

①（受講した活動内容）

二分の一成人式に取り組みました。

②（楽しかったこと、おもしろかったこと）

小さい頃の自分をふり返って、こんなだったんだと、調べているうちに、おもしろくなってきた事です。

③（勉強になったこと、新しく発見したこと）

小さい頃の自分と今の自分とでは、しゅ味だった事は一緒だったが、特技はちがっていて、ちょっとビックリした。ずっと同じだと思っていたので…。※記録した物があつたので分かりました。

④（とくに、がんばったこと）

親に聞いてまとめたりした事。

⑤（たいへんだったこと）

昔の写真があまりなくて、アルバムからはがしたりした事。

⑥（次年度の活動でとりくんでみたいと思うこと）

各都道府県の有名特産物に取り組みたい。または、世界の歴史を調べて。

児童F

①（受講した活動内容）

総合学習で昔の事を調べた。調べた事、方言、昔の遊び、昔の食べ物など。

②（楽しかったこと、おもしろかったこと）

昔の食べ物を調べて、その食べ物を実さいに作って食べたり、もけいを作ったりしたのが楽しかった。

方言を調べて、方言を使いながらげき〔劇〕をしたのがおもしろかった。

③（勉強になったこと、新しく発見したこと）

方言を調べて、おじいさんやおばあさんがしゃべっている事が少し分かって勉強になった。

昔の食べ物には、今と変わった物が使われていて、ビックリした！（発見）。

④（とくに、がんばったこと）

方言を聞きにいった事。

⑤（たいへんだったこと）

本で、もろこしまんじゅうの作り方を調べた事。

⑥（次年度の活動でとりくんでみたいと思うこと）

都留市の事について、くわしく、調べてみたい。（歴史など）。

14.6 都留市教育委員会へのインタビュー調査

14.6.1 調査実施方法

調査対象者： 都留市教育委員会学校教育課 中野一成さん
調査日時： 2004年11月2日（火曜日） 午前10:30～11:30
場所： 都留市役所内ロビー応接室
質問者： 教育・福祉班 教育グループ・メンバー4名（内・岩倉・岡田・今福）

14.6.2 インタビュー記録

* 会話の文脈をできる限り忠実に再現したが、文意を損なわない限りで付随的な発声や発言は省略した。また、読みやすさを考慮して、最小限の範囲内で編集を加えた。なお、〔 〕内は筆者による補筆部分である。

* 略記号：（中）＝中野さん、（内）＝内、（岩）＝岩倉、（岡）＝岡田、（今）＝今福

（内）市の教育委員会は、基本的にどのような仕事をする機関ですか。

（中）皆さん、教育委員会についていろんなイメージをもっていらっしゃると思いますが、昔は、学校や教員に対する管理・指導といった、そういうイメージがあったと思うんですけど、今は、もう立場的には、そういう「上から下へ」ということではなくて、子どもたちや児童生徒たちに対してどのような教育をできるかという支援のセクションですね。だから予算面での支援だとか、人的な支援だとか、そういう、協力体制を整える場所になっていますね。つまり現場の活動がより円滑に進むようにいろんな面から支援していく…。できる限り現場の声を聞きながら、それにそって予算計上をしたりとかですね…。やはり、学校現場の基本となるのは予算だと思うんですよ、授業をするにあたって。そういう時の財政部門とのパイプですね。時には、好ましくない場面では指導することもありえますが、できるだけ下から支援する、そういう機関です。

（岡）その教育委員会の協力についてですが、各学校への支援というのは、予算の面では、とくに教育委員会が決めるということではないのですか。

（中）ないですね。一応、予算計上のながれを説明すると…、各学校に、市役所のなかにある財政担当が、来年度はこういう予算の取り方をしてくださいよ、と…。たとえば、「今年は厳しいから去年より何パーセント引いてください」とか、「この面を強化してください」などと、方針があるのですね。それにもとづいて、各学校に「こういう方針が出てますよ」って、投げかけます。それを受けて、各学校の校長先生や事務の先生が、教員とのいろんな調整をしながら予算を作っていくんですね。教育委員会のほうは、その学校から上がってきた予算をヒアリングで聞き取りながら、どういうことをやりたいのか聞いたり、「ここはもうちょっと伸ばしたほうがいいのじゃないか」と提案したり…。それを〔現場の意向を〕吸い上げたものを教育委員会が財政担当にもって行って、こんどはヒアリングを受けるようになるわけです。

(内) 年間のおもな業務内容はどのようになっていますか。

(中) まず、4 月はいろんな先生方の人事が決まったり…、新入学の児童生徒がいますので、そういったものの書類整備、それから調査が4月5月はけっこう多いですね。県の教育委員会から〔依頼される〕いろんな方面に関する調査、…まず、学年始めで、学校現場の把握とか…、そういったことをしながら、夏休み前には、夏休みに向けての準備だとか、その間にも転校や転入など、そういう事務がありますね。忙しくなるのがだいたい秋ぐちからかな。もう今頃〔11月〕になると来年度の新入学児童を〔対象に〕法律にもとづいて、入学児の健康診断を各学校で行ったり。

(岡) この時期にですか。

(中) この時期ですね。そのほかに、秋を過ぎると、今度は中学の入学の準備が始まったり、…〔中断〕…そのほかにも、年間を通じて、年によって違うのですが、学校支援のためのパソコンの導入だとか、今も話をしたんですけど補助教員の関係の事務だとか、療養で休んだ先生の代わりの手配であるとか、そういった事務ですね。フローチャートの的には作れない〔列挙してフローチャートに示すことのできない〕事務が結構多いかもしれないですね。昔は4月に入るとツベルクリンや結核の関係の〔予防接種に関する事務手配があったが〕、それは、昨年に法律が変わって、ツベルクリンがなくなったんですけどね。

(今) ほかの予防接種も教育委員会が担当しているのですか。

(中) いいえ。予防接種は学校教育ではなくなりました。ツベルクリン、BCG、結核対策の法律が変わったので、それ以外の予防接種は健康推進課が担当していますね。学校教育における予防接種というのはなくなりました。

(内) 「総合的な学習の時間」の話に入のですが、都留市の教育委員会としては、「総合的な学習の時間」を通して、子どもたちに何を学び取って欲しいとお考えですか。

(中) 総合的な学習の時間がなぜ必要かといいますと…。やっぱり今、いろいろ言われている学級崩壊ですとか、個性がなくなっているですとか…。それに対して個々の個性や生きる力を伸ばすためですとか…。学校の授業というのは、やはり義務教育ですから、「覚えなきゃいけない」ということがあったりするんですが、それ以外に、人としての教育というのが今まで欠けていましたよね。国語・算数・理科・社会だけやっていればよいという…。道徳教育というものもあるのですが、なかなか功を奏していないとか…。そういった部分で少し弊害が出てきているのかなということで、やはり、こういった授業が必要なかなって思っているんですよ。

総合的な学習が導入されたのが、平成12,13年ですよ。その時に市のほうでは、総合的な時間と相まって、各学校の個性を伸ばそうということで、「特色ある学校作り」に取り組んでいるんですよ。この総合的な学習と結構重なっている部分もあるのですが、「学校独自で何か考えて、学校としての特色を出してください」ということで語りかけしたんですね。結果とし

てみると、各学校では、総合的な学習と結び付けていろんな授業がなされ成果があがっているんですね。やっぱりこういった時間が必要なのだ、というふうに思いますね。

(岡) 各学校の「総合的な学習の時間」にしても「特色ある学校作り」の事業にしても、年間を通して学校からさまざまな報告を受けて、それによって各学校の状況を把握しているのですか。

(中) …「総合的な学習の時間」ってカリキュラムのひとつですよ。そういうわけで、それだけに関してのみ報告を求めることはしていません。先ほども申しましたように、学校の特色を伸ばすための事業として各学校に補助金を出しているわけですよ、「特色を出す〔学校の個性を打ち出す〕ための事業をこれでやってください」と。学校側は、いま行われている総合的な学習と合わせて〔その補助金を〕使っているのです。だから、この補助金に関する報告が、実質的には総合的な学習の報告を兼ねるというかたちにはなっています。

(内) 都留市の教育委員会としては、「総合的な学習の時間」を通して子どもたちに何を学び取ってほしいとお考えですか。

(中) 総合的な学習の時間って授業内容が多彩なわけじゃないですか。国語や算数の時間って、カリキュラムどおりに進んでいって、自分がそれに深く関わろうと思わなければ、どんどん流れていくものですよ。そうではなくて、総合的な学習の時間というのは、バラエティーに富んでいて、もちろん、それぞれの子どもに合ったメニューがあって、そのなかでひとつでも興味をもってもらって、深く関わっていく…、と。そういったものに〔自分が興味をもったものに対して〕自分で深く考える力…、深く考え、その考えをその後どのようにしていくか…、自分で伸ばしたいのか、誰かに伝えたいのか…、というふうに、自分で考える力を身につけてもらいたいんですよ。それが生きる力につながっていくだろうし、個性にもつながっていくだろうし…。学校としても、子どもたちに対して、教室ではできないようないろんな授業をして欲しいと思いますね。

(内) 総合的な学習の時間を進めるにあたって、現場の教員や地域の協力が欠かせないと思うのですが、市内の各学校の先生方や地域の方々に期待するのはどのようなことですか。

(中) まずは子どもに、最初に興味をもたせることが大切だと思うんですよ。そのためにどうするか…。さっき言ったように選択のできるような、子どもが興味をもてるような、多彩な授業展開をしていって欲しいと思うんですよ。ただ、いろいろものだけ与えて〔選択肢を与えるだけではなく〕、それだけじゃ、まだ自分で選べない子どももいるだろうし、そういったものに興味をもてるように導くことが必要だと思うんですよ。だから、学校の先生方には、子ども一人ひとりがどういう子であるか把握していただいて、その子に合った授業を提供していくこと…〔を期待している〕。地域は〔地域に対しては〕、「支援」ではなくとも、子どもたちが学校から出たときに〔学校外で行動しているときに〕、その子を育てるといえるか、たとえば地域行事などの活動のなかでその子たちの興味のある部分を伸ばしてやるとか、そういった、「地域で育てていく」ということを僕は期待していますね。

(内) 小学校の学習内容が簡略化されたことによって、その効果や弊害について、市内の小中学校から何か報告されていますか。

(中) とくにありません。

(岡) 学習内容の簡略化などに関して、教育委員会で何か対策や支援計画などがありますか。

(中) たとえば、週5日制という問題がありますよね。学習内容の簡略化ではないですけど学習時間の削減だとか…。学校教育をはなれた部分でのケアというのは、学校教育課ではなかなかできないんですよ。だから、週5日制や学習時間の削減に対しては、教育委員会のもうひとつの課である生涯教育課というところが対応しています。そこが、土曜日にいろんな事業、[たとえば]「のびのび興譲館」で子どものニーズにあったクラブを作って、たとえば釣りだとか料理だとかアウトドアだとか、そういったものに参加を呼びかけたり…[している]。学校としては、できるところから[手を付ける]ということで、図書館開放だとか、そういういったことを一生懸命やっているんですよ。[学校教育課としては] 土日や祝日に図書館を開放するなどの部分でケアができるのですが、[その場合] カリキュラムの進め方に問題が出てくるのではないかという心配もありますね。授業時間が少ないとか、それでいてどうしても学校を開けなきゃいけない時間帯が増えるんじゃないかとか、そういうことはありますけど…。いま言った、土日に空いた図書館を開けるなどの以外に、とくに学校教育課として、具体的な取り組みというものは現時点ではないのです。

(内) 先ほどもお話に出ました「特色ある学校作り」などで、たとえば東桂小のジェンダーフリー教室などありますが、市内の学校が対外的に誇れる点には、どのようなものがありますか。

(中) これからの事業なのですが、みなさん、大学で教職課程をとっている方っていないじゃないですか。昨年度[2003 年度] からかな…、「チューター事業」という県の事業をご存知ですか。市内の小中学校でやっているんですけど、大学生が現場で、教育実習とは別に、学校に行って教員の補助をしたり、子どもたちと触れ合う場を作ったり…[という事業内容である]。やっぱり都留市の小中学校というのは、こういう部分が他の市町村の小中学校に比べてすごく有利だと思うし、特色が出る[個性が打ち出せる] ことだと思うんですよ。来年度からはウチ[都留市教育委員会] のほうでも独自事業としてそれを考えているんですよ、引き続きやっていきたいと…。やっぱり、せっかく大学[市立の都留文科大学] があるし、しかも教員を目指している人が結構多いし、っていう部分で、大学との連携…、他の市町村にはできないような教育が絶対できると思うんですよ…。小中学校にもプラスにもなるし、皆さんのためにもじゅうぶんプラスになることだと思うんですよ。こういった部分が、都留市とすれば、やはりすごく良いことじゃないかと思います。皆さんとしても、教員になる前に、そういう学校現場というものを教育実習以外で経験できたら…、やっぱり採用する側にとってみれば、現場経験があれば、それは有利にみてくれますよね。たとえば着任1年目にして問題が起きたときにすぐ対処できるかどうかとか、授業の進めかたとか、子どもとの接し方とか、そういった部分で大学・

学生の双方にもメリットがあるし、ウチとしても、すごく効果の上がっている事業なんですよ。たとえば、学校に行けない子どもがいて、大学生が来て「いっしょに勉強しよう」って声をかけてくれたら学校に行けるようになったとか、すごく子どもたちにいい影響を与えているんですよ。他の市町村にはまねできない特色ある部分だと思うんですよ。

(内) われわれ都留文科大の学生は、多くが教員志望でありまして、われわれに期待することがありましたら教えてください。

(中) それは今の話とまったく同じですね、学校教育課としてですよ。他のセクションに行けば、それぞれのセクションで期待することもあると思いますが。学校教育課とすれば、やっぱり小中学校との連携ですよ。こんなに教育者を目指すのに良い環境というのは…〔ほかにあまり例がない〕。附属校があるところもありますけど、大学の附属中学や附属小学校があつて、というのではなくて一般の市立の小中学校ですからね。皆さんが将来就こうとする、そういうところ〔一般的な学校現場〕の子どもたちと接することができたり、そういうところの先輩にいろいろ話を聞くことができたりする…。教育実習だけじゃなくて、かたちどおりのものじゃなくて、普段の授業に触れられる…。そういった部分でやっぱり協力して欲しいですね。

(岡) 3点目の質問なのですが。国が、「総合的な学習の時間」などについて指針を決めると、県や市が指令を出して、それらにもとづいて各学校で実践されるというかたちなのでしょうか。そうした場合、各学校の取り組みについて市でも評価や指導をするのですか。

(中) これについては従来どおりというか…。国から指導を受けてそれを〔学校現場に〕流して、学校現場ではそれにそって進めていくというかたちですね。

(岡) それぞれの市では、「こういう教育が行われています」などといった意見交換や議論などを、県や他の教育委員会と行う機会をもっているのですか。

(中) 学校教育でいえば、そういう機会はなかなかありませんね。ただ、教育長の全国大会やその種の会議では、それも定例なのですが、「ウチの市ではこんなことをしてますよ」とか、事例報告などがあるのですが、担当どうしでの意見交換というのはあんまりないんですよ。

(今) 「総合的な学習の時間」が導入される以前には、学級崩壊や個性の喪失などさまざまな社会問題が話題になりましたが、こういう問題は最近になってからの現象ですか、それとも、だいぶ昔からあった問題なのですか。

(中) 学級崩壊というのは〔皆さんの学校時代では〕どうでしたか、授業中に歩き廻るだとか…。私の時もとくになかったんですよ。少し年代が違いますが、私の時代というのは、たとえば、鉛筆が〔授業中に床に〕落ちたらそれを取りにいくのも気が引けるような状況でした。席を立つっていうのは…〔勇気の要ることだった〕。前の子に「ちょっと鉛筆取って」とか…〔それがせいっぱいだった〕。それが今じゃ、鉛筆を拾うぐらいじゃどうってことないみたいで

すけど、本当、とくに気が引ける様子もなく立ち上がりますよね。つい最近のことじゃないかなと思います。その原因はいろいろあるのですが、社会だったり家庭だったりするわけですよね。

(今) 都留では報告はありましたか。

(中) 報告はないですね。都留市の子は、結構、良い子ばかりですよ。

(岡) 先日、東桂小の教頭先生とお話させていただいたのですが、地域の方々と学校と児童の関係が深いのではないかなと思いました。市内の小中学校では、やはり地域の方との交流というか、地域の行事などでも触れ合う機会というのは、多いのですか。

(中) 多いですね。けっこう祭りがメインになってくると思うんですよ。都留市って八朔祭りがあったりするじゃないですか。〔市内の〕各地でそういうお祭りもありますし、地域ごとのイベントってすごく多いんですよ。でも昔と比べると…。「育成会」といって地域で子どもを育てる活動を行っている組織もあるんですよ。やっぱり子どもが減ってきていて、〔育成会の〕活動も以前ほど活発ではないのですけど。…地域で行われる行事はすごく多いですね。まあ、やっぱり田舎だからね、遊び歩くところもないからなのかもしれないけど…。やはり、人並みに悪さする子はいますけど、中学生くらいになればいろいろやりたいこともあるだろうし、反抗期っていうのもありますからね。とりたてて困ってることって、今はないですね。

〔先ほど〕総合的な学習の時間の補助の話が出ましたが…、総合的な学習の時間はカリキュラムのひとつなので、来年度からは、本当に学校として特色を打ち出す学校について支援をしていこうかなんて思っているんですよ。今までは、導入されて本当に日が浅かったので、そういう〔現行の〕かたちでやってきたんですけど、来年度からは、本当に学校として力を入れて「特色を出したい」という事業を行おうとする学校に対して、支援をしていこうかなんて考えているところです。結構これから、また学校がおもしろくなると思いますよ。

(内) いまのところ、補助金は一律ですか。

(中) 一律ですね。

(岡) 東桂小の先生から、総合的な学習の時間で「他県の学校と親交を結んでヤマメの放流をした」と伺ったのですが、市として特に他県の学校との交流はありますか。

(中) 市としてはないですね。学校単位ではあると思います。

(岡) 学校独自で、ということですか。

(中) そうですね。それを教育委員会に報告しなさいということもありませんので。〔教育委員会としても〕良い取り組みは把握しておかないといけないと思いますけど。

…やっぱり学校の授業は授業として、いいことをしていれば良いと思うナ。皆さんは教職課程を取っています？ 教育実習って今の時期だけ？

(岡) 3年生がいま行っています。

(中) 教員を目指していて、逆にどういうところが不安ですか。

(内) 心の教育…。

(中) どういうふうに育てていけばいいか…。カリキュラムだけでなく、先生自体の経験が豊富でないと、教師としてではなくて人としての経験が豊富でないと、やっぱり柔軟に対応できないと思うんですよ。[相手が]いくらでも書き込むことのできる紙じゃなくて人間ですからね。たとえば、A を言ったところで、[相手から] B が返ってくるのか C が返ってくるのかわからないじゃないですか。そのためには大学時代に、遊びほうけていてはマズイけど、いろんな経験をしたほうが良いんじゃないかなって思いますね。それだけです。

じゃあ、教員になって頑張ってください。[市内の] 小中学校にぜひ行ってやってください。

14.6.3 インタビューを終えて ——まとめと感想

私たち「教育・福祉班 教育グループ」は、11月2日の10時半から都留市市役所において、都留市教育委員会学校教育課の中野さんへ、約1時間のインタビューを行った。私たちは、都留市の教育の現状や実態を調査する過程で、現場としての学校はもちろんのこと、現場の仕事を裏で支える教育委員会の仕事を把握することも重要であると考え、インタビューでは、おもに教育委員会の仕事や、学校その他の機関との関係について、また、私たちが調査していた「総合的な学習の時間」や週5日制、指導内容の削減など、時事的な内容について質問した。

まず、教育委員会は、中野さんの話によると、現場の監督・管理ではなく、「支援」をするセクションであり、人的あるいは予算面での支援をしているのだということであった。特に財政担当とのパイプ役としての役割は重要で、教育委員会は各学校にヒアリングを行い、それを財政担当に報告しながら予算ができていくとのことだった。他には、教員の人事や進入学・転入学の児童生徒の書類に関する仕事などがあり、「フローチャート的には作れない」仕事が多いそうである。

次に、「総合的な学習の時間」については、都留市教育委員会としては、「人としての教育」という観点から「個々の個性を伸ばす」「個々が生きる力を伸ばす」ために必要だ、という見解であった。都留市はこの「総合的な学習の時間」を導入するにあたり「特色ある学校作り」に取り組み、各学校独自の多彩な授業が行われるにいたったそうである。教育委員会は各学校の取り組みとそれらの成果を、各校からの補助金の使用報告を通じて把握しているそうである。また、総合的な学習の時間を通して児童生徒たちには、自分が興味をもったものに対して深く関わり、「自分で深く考える力」を育てたいと期待しているようである。それが子どもの生きる力や個性を伸ばすことにもつながるだろう、とのことであった。そのためにも教員は、子どもが興味を持てるように導き、一人ひとりの個性にあった授業を提供することが必要であり、地域には、子どもが学校から外に出たときに「地域で育ていく」という姿勢で接して欲しいと語っていた。

週5日制や学習時間の削減に関しては、学校教育課としてはカリキュラムの問題もあって、具体的な支援策は未定であるものの、先行して学校図書館の土日・祝日の開放が行われているとのことであった。他の事業としては、生涯教育課が「のびのび興譲館」で、釣り、アウトドア、料理といった子どもたちにニーズがありそうなクラブをつくり参加を呼びかけているそうである。

また、都留市内の小中学校が対外的に誇れる点として、学園都市、しかも教員養成系の大学のある町としての強みを活かした「チューター事業」があるとのことであった。これは、将来、教員を目指す大学生が学校で教員の補助をしたり、子どもたちと触れ合ったりする場を作ることを目的とした事業で、学校側にとってメリットとなることはもちろんのこと、学生側にとっても、教育実習では体験できない現場経験をつむことができ、教員採用や採用後の実践現場で大いに役立つとのことである。この事業の効果は大きく、不登校の子どもが登校できるようになったなどの事例もあるという。

そのほか、地域と教育との関係では、都留では祭りなどのイベントが多く、そういった地域の行事を通じて、小中学生が地域の住民と触れ合う機会も多いとのことであった。

今回のインタビューでは、私たち自身の当初のイメージと異なり、教育委員会は管理指導的な立場にある権威的な組織などではなく、教育の現場を「下から」支えている組織であることがわかった。そして、総合的な学習の時間をはじめとする事業が、現場である学校主体で行われていて、教育委員会はそれらに、指導ではなく「支援」というかたちで関与していることもわかった。また、私たち都留文科大学の学生への期待の高さにも驚かされた。インタビューの最後で、教員を目指す私たちに中野さんから贈られたメッセージが印象的であった。

(今福 健太)

参考文献・資料

「朝日新聞」2002年7月23日

「神戸新聞 WEB NEWS ニュース」2002年3月24日（社説「揺れる新指導要領『新学期の戸惑い』避けるために」, <http://www.kobe-np.co.jp/shasetsu/020324ja113300.html>）

「谷村第二小学校ホームページ」（<http://www.school.tsuru.ac.jp/~yanisyo/>, 2004年6月）

「東桂小学校ホームページ」（<http://www.school.tsuru.ac.jp/~hkatsusy/hyousi/hyousi.htm>, 2004年6月）

「都留市役所ホームページ」（<http://www.city.tsuru.yamanashi.jp/>, 2004年6月）

「文部科学省ホームページ」（<http://www.mext.go.jp/>, 2004年6月）